

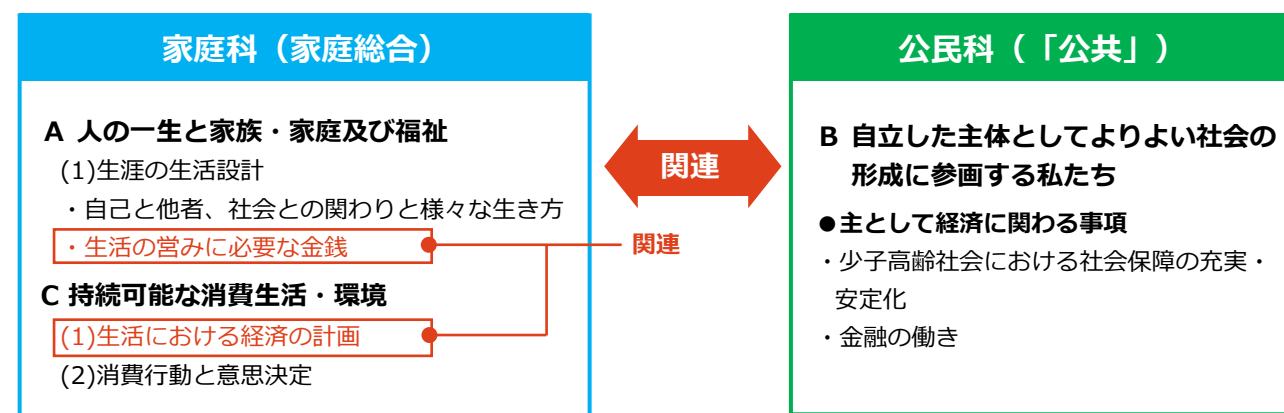
高等学校における「消費生活」についての学習は、成年年齢を前にして、自分の生活を自分でつくりだしていく力を育成することが求められる。ここでは、公民科と関連を図りながら「資産形成」について理解を深めるとともに、専門家（クレジットカード会社、保険会社）を活用した授業で、「成年として、主体的に生活をつくりだすこと」を自分の問題として捉えさせた実践を紹介する。

POINT 1 公民科との関連付け

「持続可能な消費生活・環境」と「経済」を関連付けて深める

公民科と、学習する時期を揃えて年間指導計画を立案

「C 持続可能な消費生活・環境」について、「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」の一部分を関連させ、『生涯を見通した、主体的な経済計画とは？』という単元として、第2学年で実施した。合わせて公民科（「公共」）の主として経済に関わる内容と、学習する時期を揃えて年間指導計画を立案。単元の終末は、公民科教員とのチームティーチングによる授業を実施。『今、100万円があるとしたら、どうする？』という課題を設定し、自分の家計管理や資産形成における選択・判断が、社会経済とつながっていることを深く捉えられるよう工夫している。



実践者に聞く！ エピソード紹介

● 公民科の授業のふりかえりがきっかけ

公民科の担当教員と生徒の様子などについて話をする中で、公民科の授業のふりかえりとして提出されたレポートの中にあった「家庭科の授業で習った〇〇が～」という記述を見せてくれたことがありました。それが公民科の授業内容について知っていくきっかけでした。さらに話をしていくうちに、家庭科と公民科は関連する内容が多いことに改めて気づき、授業者が意識して、教科を関連付けた指導を工夫することで、生徒の理解が深まるのではないかと考えるようになりました。

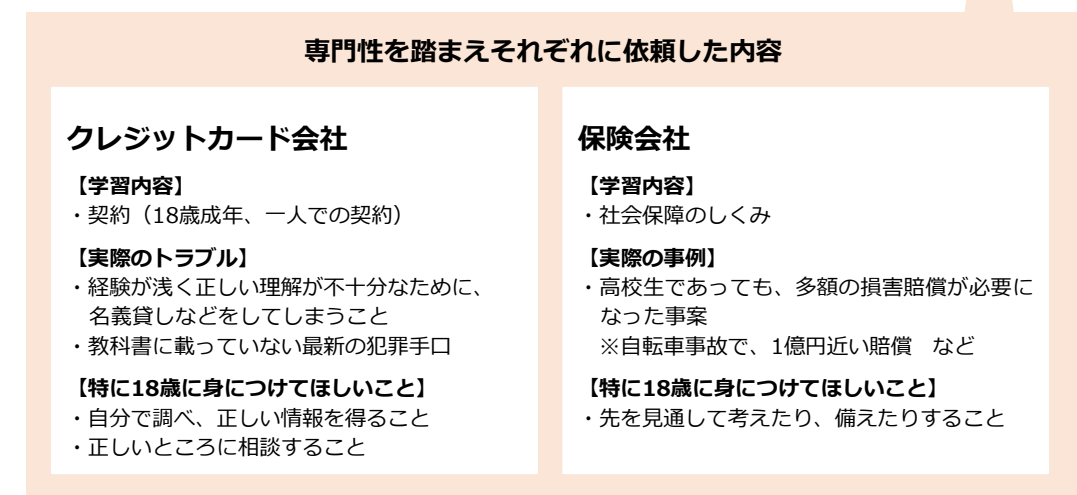
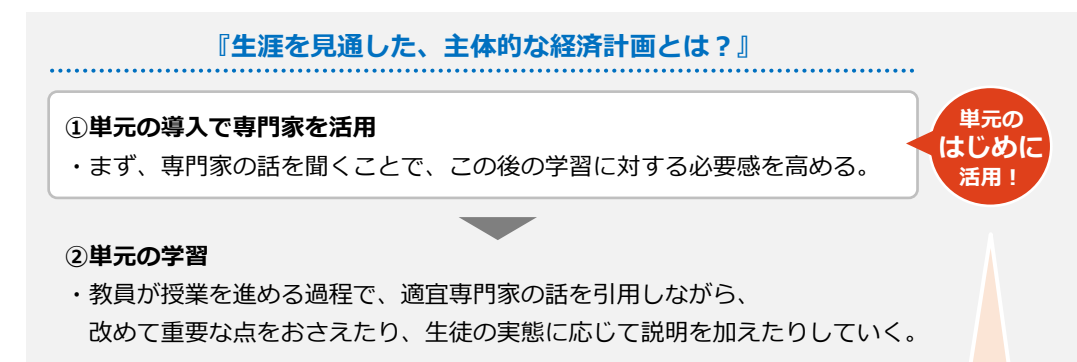
POINT 2 専門家の活用 —それぞれの専門性を活かした2つの出張授業

特に生徒が関心をもちづらい内容を自分事として捉えさせる

「クレジットカードの被害、危険性」や「生きていくために必要な備え」について、専門家から語ってもらう

単元の始めに、専門家を活用した授業を実施。生徒が関心をもちづらく、理解もしにくい「クレジットカード利用」と「社会保障制度」について、それぞれクレジットカード会社と保険会社に協力を依頼。専門家から「18歳成年への注意喚起」「社会生活の実態」という具体的な話を聞くことで、成年としての社会生活を自分の問題として捉え、必要感をもちながら学習を進められるよう工夫した。

【学習の流れ】



実践者に聞く！ エピソード紹介

● 過去の実績、本校の特色や生徒の実態を踏まえた要望を伝えて、より有意義に

今回の専門家による授業は、本校では例年実施しているパッケージ化されたプログラムです。事前に打ち合わせをして、昨年度生徒が実感をもって学べたことを伝えつつ、「若い人たちが陥りがちな最近の消費者トラブル」について入れていただけるよう要望しました。また、本校の生徒の学習の進度や理解度など実態に合わせて、説明スライドを事前に共有してもらい、文言チェックをしています。合わせて、高校生の既有知識や家庭科の学習内容の視点から、よりよい表現への改善を依頼することもあります。

単元計画『生涯を見通した、主体的な経済計画とは？』

単元の目標

【知識及び技能】

主体的な経済生活を営むために必要な経済計画（管理や資産形成）、消費行動における意思決定の重要性、消費者保護の仕組みなどについて理解するとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。

【思考力、判断力、表現力等】

主体的な経済生活を営むために必要な情報を収集・整理し、消費生活の現状について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

主体的な経済生活を営むために、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、ふりかえって改善したりして、自立した生活の充実向上を図るために実践しようとする。

単元計画

単元の始めは、「今日、契約をしてきた人はいますか？」という問いかけから入る。多くの生徒は「していない」と答えるが、「買い物・電車に乗るのも契約」などと説明し、身近に感じにくい経済の内容を自分事にさせながら、導入する。

悪質商法について「ペアで、片方が勧誘役、片方が消費者として断る役。断りきれるか、なりきってやってみよう」というロールプレイを行う。知識では「自分では大丈夫」と思っても、「断りにくい」心理を体験することで、学習を自分事にしていく。

教科書に掲載された給与明細に加え、求人票を活用し、生徒にその違いを見つけてさせたり、休暇・社会保障制度の重要性に気づかせたりする。

単元の学習のまとめとして、生涯を見通した経済の管理や計画について、公民科とチームティーチングによる授業を実施。社会との関わりの視点から考えを広げ、深めていく。

時数	学習内容
17	●単元を通して考える問いの提示 『生涯を見通した、主体的な経済計画とは？』 ●18歳成年できることと責任とは？ ★専門家の活用 ・契約、キャッシュレス決済、クレジットカード ・闇バイト 人生にお金は、いくらかかる？ ★専門家の活用 ・リスク管理、社会保障制度 選ぶときの基準は？ ・消費者の権利と責任 「まさか自分が」被害にあわないためには？ ・悪質商法、消費者被害 ●望まない契約をしてしまったら…… ・消費者問題や消費者の自立と支援、契約の重要性 お金を稼ぐ方法は？ ●給与明細の見方 ・正規雇用・非正規雇用、社会保障、税金 買い物をするときに、お金が足りなかったら？ ・家計の構造、金利、リボ払い、トラブル例、多重債務など ●今、100万円があるとしたら、どうする？ ●★公民科と関連付け ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画 ・リスク管理の考え方、資産形成

本時の授業展開

「資産形成」について、公民科の学習を活用することにより、主体的な経済計画について理解を深める。

本時のねらい

・計画的な家計管理や資産形成の重要性及び、家計と社会経済との関わりについて理解し、自分の経済計画について主体的に考えていく意欲を高める。

本時の展開

(50分)

過程	学習内容	指導上の留意点
導入 10分	①自分の人生、どのように設計していきますか？ ・家計の構造、預貯金（ふりかえり） ②預貯金は本当に安全なの？ ・インフレ ・資産形成の重要性	・急な出費があること、将来で予測される大きな出費を提示し、資産形成について考える必要性を喚起する。
展開 ① 15分	【グループワーク】 ●今、100万円があるとしたら、どうする？ ・個人で考える ・グループで交流する	・まずは個人で考え、その後交流させ、視点を広げる。
展開 ② 15分	★公民科教員 ①金融商品の種類 ・金融市場の仕組みと金利の働き ・銀行、証券会社、保険会社 ・投資信託 ②金融を通した公共経済活動の活性化 ・金融制度改革の動向や金融政策 ・革新的な金融サービス ③ESG投資とSDGs	★公民科教員にサポートしてもらい、補足する。 ・近年様々な金融商品が登場しており、主体的な情報収集が必要であることを伝える。 ・投資によって、社会課題解決を支援することにつながることを説明する。
まとめ 10分	①リスクをどのように回避する？ ・投資の原則（分散、長期、積立） ・ドルコスト平均法 ②資産形成に重要なポイント ・エシカル消費の視点でのESG投資 ・情報収集の必要性 ③授業の内容をふりかえって心に残ったことを書こう	・家計管理の視点で、投資との関わり方を指導する。

いきなり「今、100万円があるとしたら、どうする？」と投げかけても、自分の趣味などでの使用を考えてしまいがちなので、これまでの単元の学習をふりかえってから本時を導入する。

導入で資産形成の必要性を投げかけてはいても、このワークで「投資」を考える生徒は少ない。グループでの交流を通して、様々な可能性があることに気づかせる。

公民科教員より、「家計は、社会における経済活動の基本単位であり、企業や政府だけでなく、経済を支えていること」「生活は、諸外国の経済とも結びついていること」を伝える。

本時の学習をふりかえり、自分の家計管理について、社会とのつながりの視点で深めた自分の考えを記述させる。